

第3回 旧広島市民球場跡地委員会 議事要旨

1 開催日時

平成24年4月19日(木) 午後3時～午後4時45分

2 開催場所

市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員

委員22名中20名出席(芳我委員、古川委員欠席)

(2) 事務局(市)

都市整備局長、都市機能調整部長、旧市民球場跡地担当課長、担当職員

4 議事

(1) これまでの委員会の開催状況と検討グループ会議での議論について

市が、これまでの旧市民球場跡地委員会が出された意見や市議会から出された旧市民球場跡地の活用に係る意見や提案等を紹介した上で、これまでの委員会の開催状況と今後の議論の進め方を説明した。また、委員長が委員会における議論の経緯について、2回の検討グループ会議における議論の内容を中心に報告を行った(発言要旨は別添のとおり)。

(2) 旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、理念と加味すべき視点の整理

市が、検討グループ会議の議論を踏まえた跡地活用のテーマについての整理案を説明し、各委員が跡地活用のコンセプトやテーマとなる考え方、理念等について意見交換を行った。なお、この整理案の修正については正副委員長に任された(発言要旨は別添のとおり)。

(3) アイデアの比較考量について

市が、アイデアの比較考量の進め方について説明し、了承された(発言要旨は別添のとおり)。

5 公開・非公開の別

公開

6 配付資料

資料1 旧広島市民球場跡地委員会の開催状況

資料2 旧広島市民球場跡地委員会における議論の経緯

資料3 検討グループ会議での議論を踏まえた旧市民球場跡地活用のテーマについての整理案

資料4 アイデアの比較考量について(案)

参考資料1 これまでの旧市民球場跡地委員会が出された意見やアイデア

参考資料2 市議会から出された旧市民球場跡地の活用に係る意見や提案

参考資料3 市に寄せられた市民等からの提案

7 発言要旨

(1) これまでの委員会の開催状況と検討グループ会議での議論について

山野井委員長

昨年10月以降、この委員会は、2回の委員会と2回の検討グループ会議を開催してきた。

1にあるように、2回の委員会を通して、委員の皆さんから具体的な活用方策について、資料を提供していただくなど、様々な御意見をいただいた。また、事務局からも、過去の検討段階で市に寄せられた市民等からの提案や、球場跡地及び都心の状況等について併せて資料を提供していただき、議論の参考としてきた。

そして、この2回の委員会において、委員の皆さんから出された多くの意見を更に掘り下げ、機能別に分類整理することなどを主な目的として、検討グループ会議を設置することにし、本年2月以降2回開催したところである。

「2 検討グループ会議」であるが、これまで2回の委員会で出された意見を概括した場合、跡地にどのような機能、役割を担わせるべきかといった「跡地活用のテーマとなる考え方、理念」といった抽象的な意見と、「どのような施設を整備すべきか」といった具体的なアイデアとが混在していたため、まず第1回目の検討グループ会議では、「跡地活用のテーマとなる考え方、理念」について意見交換を行った。

その結果出された主な意見としては、

- ・ 都市像「国際平和文化都市」との関連を持たせるべきである。
- ・ 広島歴史、特性等と関連を持たせるべきである。
- ・ 周辺も含めて経済の活性化につながるものにすべきである。
- ・ 未来志向の場とすべきである。
- ・ 将来の社会環境の変化に適応できる活用を目指すべきである。

といったものであった。

また、この「跡地活用の方向性について」は、各委員から、他の大規模未利用地などを踏まえた上で、都市全体での機能分担を考慮すべきといった意見や、球場跡地が都心であるということから、そのにぎわいの質や集客の対象に関する意見などが出された。

この第1回目の検討グループ会議での意見を踏まえ、第2回目の検討グループ会議では、「跡地活用のテーマとなる考え方、理念と加味すべき視点」の整理案が事務局から示され、この点について、議論を深めた。

その結果出された主な意見としては、

- ・ 上記(ア)から(オ)については、並列の関係にないものや、まとめることができるものが混在しているため、加味すべき視点と合わせて再整理する必要がある。
- ・ テーマとなる考え方、理念を補完する視点として、外国人観光客の流入を図るという視点を加えるべきである。
- ・ 旧市民球場跡地の特性や特徴を押さえておく必要がある。

といったものであった。

この2回の検討グループ会議での議論を踏まえ取りまとめたものが、本日資料3として提出されている「跡地活用のテーマについての整理案」である。

なお、お忙しい中、検討グループ会議に出席していただいた委員の皆さんには、活発な意見交換をしていただいた。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。以上、簡単ではあるが、これまでの議論の経緯について、私からの報告を終わる。

(2) 旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、理念と加味すべき視点の整理

山野井委員長

事務局から議論の進め方の説明にもあったように、今後、この委員会は、アイデアの比較考量という次のステップに進むことになるが、その際の評価軸になるものがこの資料3にある「テーマとなる考え方、理念」と、それを補完する「加味すべき視点」であり、実際は、これらを組み合わせて各アイデアを比較考量していくことになるのだと思う。

ここに書かれている理念や加味すべき視点は、2回の検討グループ会議の議論を踏まえて作成された整理案であるが、本日の会議では、次の比較考量のステップに進むため、この資料について委員全員で確認していただき、委員会として一定の整理をしておこうと思う。

それでは、この資料に関して御意見があればお願いします。

天倉委員

いろいろと検討していただいた結果が、こういう形で進めていこうという形になっているのだと思う。私の持論は、「平和文化都市広島」ということで、文化の伝道が非常に遅れているため、お金は掛かるかもしれないが、ここには是非とも伝統芸能など文化の殿堂として、丹下構想に負けないような世界的に見て素晴らしい建造物、広島を始め日本の伝統芸能を発表する場、これを作っていただきたい。そうすることによって、ここに書いてある考え方や理念に沿うのではないかと考えており、そういう形で進めていただければありがたい。

山野井委員長

その点については、加味すべき視点に入れて検討を進めていくということによろしいか。

打越委員

これから各論に入っていくと思うが、私は、地下街シャレオなど周辺地域との連携や回遊性等について考えている。

実現可能性ということで、事業費や都市公園法上の制約等、また、回遊性については、第3段階に入って検討するのだろうが、第3段階に入る前にこういったことがどこまで問題があるのか、事業費については、いいアイデアが出ればいろいろな方法で拠出できるものか、限られているのか、都市公園法上の制約については、いろいろな届出をすれば拡大解釈した施設ができるものなのかという問題点を早目に出された方がよいのではないかと考えている。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

第1回委員会等で整理させていただいているが、制約等については、資料を整理し、提出させていただく。

岡野委員

二つ質問したいのだが、その前に、吉長委員が言った「私は、文化というのはスポーツも含めて文化と考えている」という考えに賛成であり、あの時、労働に対する西洋的な発想の中での非労働が文化であると余計なことを言ったが、カルチャーというものは、要は耕作農民、自立農民ということなのだろうが、私は、カルチャーを幅広い見地で捉えたいと考えている。

質問であるが、ここに他の跡地ということで、市民球場の跡地を含め、西飛行場跡地や広島大学本部跡地、二葉の里地区の4か所をピックアップされているが、この4か所をピックアップした理由をお聞かせいただきたい。

それからもう一つは、加味すべき視点について、私はこれを理念を補完する視点とは解釈していないのだが、前回の資料でこの視点にあったものの一つが理念に移り、新たに「国内外からの集客が見込まれること」というものが加わっている。これが加わった経緯について御説明いただきたい。

手島都市機能調整部長

四つの土地は例示ということであるが、まず、市内のある程度中心部にあつて大規模なものであること、そして、それぞれの土地については、例えば西飛行場であればヘリポート化の後、40ヘクタールに上る未利用の空間が出るということが方向性として出ており、その活用を県と一緒に広島市で考えていくことが市としての方針となっている。二葉の里地区については、区画整理等でいろいろな開発が進んでいるが、そこにどういった機能を持っていくかという大きな土地の中で懸案を抱えたエリアである。また、広島大学本部跡地については、御存じのように知の拠点ということでその有効活用についてこれまでも市の方で取り組んできたが、今年度末に一部の土地の売却も含めた整理をしていく必要があるということで、市の方では主要なプロジェクトとして取り組んでいる。

それぞれについて、まず、中心部にあり大きな未利用地であること、また、一定の方向性を出すべく、市の方で取り組んでいる土地ということでここに例示させていただいたものである。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

加味すべき視点として、「国内外からの集客が見込まれること」という視点が入っているのはどうしてかということであるが、これは検討グループ会議において、渡田前委員や下村副委員長の方から、にぎわいの観点からも交流人口というものを意識していく必要性があるのではないか、外国人観光客等の流入を図ることも必要なのではないかという御意見をいただいたため、そういった視点を加味させていただいたものである。

岡野委員

市中にあつて大規模な土地ということであれば、例えば、出島もあれば観音、あるいは佐伯区の方もいる。なぜ、この3か所だったのかということと、にぎわいを求める、すなわち、集客数ということであれば、交流人口として国内外からの集客を望むことは当然なことである。委員からの発言としては他にもいろいろな意見が出た中で、あえてこれが視点の中に加

えられた理由は何なのだろうか。

山野井委員長

この資料については、これで確定ということではなく、もう少しこういったことも加味すべきではないかといったことを、今日議論していただき、次のステップに移りたいと思っている。検討グループのメンバーでない委員もたくさんいるため、そういったことを忌憚なく聴かせていただきたい。

蔵田委員

2回も欠席し、申し訳ない。先ほど、委員からあったが、例えば「国内外からの集客が見込まれること」については、国内と海外が分けてある。基本的には定性評価と定量評価があるが、そこにやはり定量面を加味してもらいたいと思う。例えば、現状、どういう計り方をするのか分からないが、旧市民球場跡地のにぎわいという定義について、例えばこれまで何人の集客があったのか、そして、今回、どれだけのベンチマークを設定し、それに対して投資に見合う収益はどうかということにも関わってくると思う。是非、定量評価ができるものは定量評価のベンチマークを入れてもらいたい。

山野井委員長

そういった意見も次のステップに行くためには、当然、必要になってくると思う。

棚多委員

コンセプトのところ、2の「まちづくりの視点」の中に、「いずれの視点で」と書いてあるが、私はこの中の二つ、三つが同時にできるということもあり得るのではないかと考えている。いくつか横串を刺した視点というものも実際には必要になってくるのではないかと、要するに単一のものという考え方をしない方がよいのではないかとと思うがどうだろうか。

また、「若者を中心」というところで、「将来的にみて跡地が魅力ある空間」と書いてあるが、「空間」という言葉をどういうイメージで使っているのか教えていただきたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

コンセプトについては、第1回目の委員会からお示ししているものである。これは市長が就任の際に、市民球場跡地については「若者を中心としたにぎわいのための場」にしていきたいということで示したものであり、これを基本コンセプトとして委員会の方では議論いただいているということで、出発点である。

「空間」という言葉であるが、「空間」というのは、球場を壊した後であるため、敷地に今は何も建っておらず、ある程度大規模な空間になっているということであり、それ以上の意味はないものである。

山野井委員長

「まちづくりの視点」に関して、「いずれの視点」というのは、一つに限定しているわけではないということでしょうか。

棚多委員

例えば、文化とスポーツが一緒にできるようなものもあるかもしれない。また、芸術と商業が一緒にできるものがあるかもしれない。そういう中で、「いずれの」と書いてあるが、それは、文化、芸術、商業、スポーツなどそれぞれ一つずつの視点で考えていくという意味でこれを例示しているのか、そうではなく、これは例示であるため、「いずれの」と書いてあるが、この中で二つくらいを一遍にできるようなことがあるかもしれないからそれも考えていこうという形で考えているのか、そこをお聞かせいただきたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

それについては、後者である。第3段階等において、いろいろな複合施設等の検討もさせていただくことを予定している。

西田委員

検討グループ会議の資料を時間がある限り読ませていただいたが、実は読むごとに何をどうすればいいのかわからなくなった。

もちろん、にぎわいは必要だろうが、全部を網羅できるとは思っておらず、今日この資料をいただき、加味すべき視点のところの1にある「他の跡地である西飛行場跡地、広島大学本部跡地、二葉の里地区での分担の可能性はどうか」というところについては、私は十分に加味しながら、ではここで何ができるかということも反対側から考えていかないと決まらないのではないかと思っている。また、本当に必要なものを私たちの中で分けて考えていけるのかという不安も持っている。特に、「広島市の魅力を高める都市機能であること」や「将来の社会環境の変化に対応するものであること」という具体例がないものについて、私の能力の中で加味することができるかと思うと不確かであり、困っているのが事実である。

旧広島市民球場跡地の前の相生ビルに行くことがあるが、そこから下を見ると、何もなくてもすごくいいという空間が実はできている。皆で現場を見ながら、考えていくということもよいのではないか。

寺西委員

質問であるが、西田委員が言った中にも少しあったのだが、テーマとなる考え方、理念の中の5番目にある「将来の社会環境の変化に対応するものであること」というものは、どういうことを念頭に置いたテーマなのか。

下村副委員長

若干補足させていただくと、将来の社会環境の変化に対応するというのは、御承知のとおり、今、広島市の人口は約110万人である。これが2050年には100万人を切ってしまう状況にある広島市において、どういう形がいいのかということが、この社会環境の変化の一つにある。そういうことを含め、交流人口によるにぎわいづくりの場、海外からのお客様を集めて広島市の人口が減る分をいかにそこでカバーしながらやっていこうかというところで、この4番目に「国内外からの集客が見込まれること」ということを入れているという状況である。

基本的には人口が減少し、高齢化社会や少子化社会が来るということは、皆さん御承知の

とおりであるが、広島市もそういう状況になるというところを加味しながら、考えていかないといけないということである。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

今、副委員長が言ったとおりであり、先日の中国新聞にも出ていたが、藻谷浩介氏と広島県知事の講演会に私も参加させていただいた。将来、人口が非常に少なくなるといったことなどもあり、コンセプトにもあるが、将来的にみて跡地が魅力ある空間であるということが必要であり、そういう社会環境の変化にも対応できるというテーマとなる考え方、理念がここに入っているものと考えている。

寺西委員

社会環境の変化というのは、少子高齢化と人口減少の話が念頭に置かれているという話だったが、「長期的な視点」の中では「若者を中心」として「将来的にみて跡地が魅力ある空間であると評価してもらえる」とあるように、これは若者中心の議論、若者が集まりやすい空間をイメージということになるのだろうか。少子高齢化で若者が減り、年寄りが増えていくような構造になるのではないかと思うが、その話と今の若者中心にというところが、どう関連しているのか教えていただきたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

コンセプトにある「若者を中心」というのは、現在の若者というわけではなく、象徴的にここで若者という言葉を使っているが、将来、今の世代の若者のみならず、今の若者が将来歳を重ねていく、そのときでも評価してもらえる、魅力ある空間にしたいということであり、若者だけをターゲットにしたという意味でここに設けているものではない。先ほどの繰り返しになるが、社会環境の変化にも対応することができるということで、理念として掲げられているものと理解いただきたい。

徳弘委員

にぎわいという視点について第1回目に天倉委員から意見があったが、戦後復興の中でこの旧広島市民球場には年間80万人とも100万人とも言われる人が集まったとされている。この球場を取り壊したばかりに、この大手町の商店街や周りも大きな被害を受けており、私も多くの友人が大手町にいるが、「今から委員会に行ってくる」と言うと、「にぎわいの創出につながることを、これだけは言うておいてくれ」と尻を叩かれた。一方で、「委員会では何の話をしているのか」というようなこともあった。私もあのエリア内にいるが、本当にあの限界は人出が少なくなり、地域の者もこれを一番心配している。閉店した喫茶店もあり、段々寂れていくまちになるのが悲しいという気持ちである。

山野井委員長

当然、各回にどのくらい集めるのかという問題もあり、逆に年間を通して常時何人来てもらうのか、数字の出し方もいろいろあると思う。そういったことも加味しながら次につなげていければと思う。

徳弘委員

早い話が80万人来ていた人が来なくなったのである。それに見合うようにぎわいを創出したまちづくりをするために汗を流し、知恵を出してやっていくのがこの委員会ではないかと思う。

房安委員

ライトスタンドについて、まだ一部残されているように見受けられたのだが、建物を造るのであればライトスタンドの一部も取り壊さないといけないのではないかと思う。公園にするのであれば残してもいいのではないかとも思うが、そこは事務局の方ではどのように考えているのかお聞きしたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

ライトスタンドがなぜ残ったのかという経緯については、平成20年9月、「現球場の跡地利用の基本方針（たたき台）」に対する市民意見を募集した結果、球場を何らかの形で残してほしいという意見が多く寄せられた。そのため、球場の一部の保存を検討し、ただし、たくさん残すと回遊性を阻害するということにもなり、また、管理費用がかさむというようなことなどもあったため、それを考慮した上で、従前の利用計画においては、外野のライトスタンドの一部をあの形で残すことにしたものである。

この委員会においては、せっかく市民の意見があつて残しているのだから、取り込んだ形で跡地利用を考えようという意見もあるかもしれない。もう取り壊してしまった方が跡地利用にとっていいのではないかという意見もあると思う。その辺も活発に議論いただければと考えている。

山口委員

コンセプトにある若者について、検討グループ会議でもいろいろと議論があつたと思うが、例えば、シニア世代といった世代との関わりをどのように考えているのか。これから日本も高齢者層の人口がどんどん多くなっていくのだが、一方で、元気のあるシニア世代も出てくると思われる。いろいろな文化活動、消費活動、そういった部分にも参画していくようになると考えられるが、そういった世代をどのようにこのコンセプトの中で考えていけばよいかということをお聞きしたい。

それから、理念の中で、これも検討グループ会議で話があり、佐藤委員が言ったのだと思うが、中枢性や拠点性の記述について、最初にこれは加味すべき視点にあつたが、非常に大事だということで、今回理念の中の最初の本文に書かれている。これは、理念の下の1から5のどこにも入っていないが、いかなるものを考える場合にも常に中枢性や拠点性を最大限考えていくと整理しているのだろうか。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

若者という表現についてであるが、現在の広島市民だけでなく、将来の世代にも魅力あるものとして喜ばれるものにする必要があるのではないかということで、若者という言葉を象徴的な意味で使っているものであり、若者だけをターゲットとしたものではない。全市民を

対象にしているからこそ、中心という言葉が添えられていると御理解いただきたい。あそこ跡地は、都心に位置しており、老若男女、全ての広島市民が利用したいと思うような場所にしていかないといけないということも、皆さん共通の認識だと思う。今回の検討において、若者という象徴的な言葉を使っているが、全ての市民の皆さんがターゲットであると御理解いただければと思う。

山野井委員長

テーマとなる考え方、理念にある、中枢性、拠点性の向上というところに関しては、掘り下げると、この1から5までを含んでくるものと考えていただきたい。中枢性と拠点性を外して、この1から5ということではなく、この1から5も掘り下げていくと、こういったものが入ってくると考えていただきたいと思う。

天倉委員

事務局から若者の定義の説明があったが、今のようなことが分からないと球場跡地は若者のためにやるのかと聞こえるわけである。この言葉は、市長の意見なのか、市長がそう言われたのか。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

この言葉は、市長が就任記者会見のときに使った言葉である。委員の御指摘のように市議会からも同じ質問をいただいた。先ほど申し上げたように、若者を中心というのはあくまでも象徴的な言葉であり、ターゲットは当然、老若男女全ての広島市民であると御理解いただければと思う。

天倉委員

市長の言葉を事務局が補完したのか。市長が言われたのか。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

市議会での質問に対する回答自体は、理事者側である局長以下の事務方が答弁している。

西岡都市整備局長

補足させていただくと議会では、若者が中心というのは、市民の中である偏りをもった検討を行うのかという質問があり、それに対しては、そうではなく、全ての市民を対象としながら、象徴的な意味で若者という言葉を使っているものであり、排他するものではないと答弁している。これは答弁する前に市長にきちんと協議した上で、市長の思いを我々が代弁しているものであり、市長の気持ちでもある。若者以外を排他しようという積もりは毛頭なく、市長も同様である。

山野井委員長

当然、若者も年を取っていくものであり、年を取ったときに、我々が若いときにはこの場所はこうだった、こうだったということ子どもや孫と一緒に語り合えるようにぎわいを

創出することができる場がいいのではないかと皆さん考えていると思う。委員会としても、そういった形でにぎわいが創出できればということで、そのために何がよいのかといったテーマ、理念について検討していければと思う。

佐藤委員

私は、検討グループ会議にも参加しており、この資料3にも若干の責任があるということになると思うのだが、なかなかこの議論を十分に詰めていく時間もなかったこともあり、自分自身、これでよいのかということについては悩ましいところがある。具体的に言うと、第1回、第2回の委員会で委員の皆さんから多くのアイデアが出たが、これをどう評価していくのかということが委員会の大きな役割であり、そのものさしとしてこういった上位の考え方がいるのだろうかということで詰めてきたわけであるが、それがものさしとしてどのくらい使えるのか、例えば、加味すべき視点に書いてあるものについては、(1)や(2)に具体的な問題設定がしてあるため、評価軸になり得ると考えられる。これに即していろいろなアイデアは整理しやすいと思う。

しかし、その上のテーマとなる考え方、理念というのは、先ほども質問が出ていたが、特に5の「将来の社会環境の変化に対応するものであること」とは一体どういうことなのか、とてもこれはものさしとはなりにくい。つまり、これを上位の概念として捉えるのであれば、これを具体的に説明するものが、右側の加味すべき視点というものであり、テーマとなる考え方、理念と加味すべき視点を合体すれば、ものさしというような意味合いでこのペーパーを使うことができるのではないかという気がしている。テーマとなる考え方は非常に大きな概念、つまり、これ自体はものさしとしての意味合いはない考え方であるため、これを踏まえてやらないとアイデアの意味はないという意味であり、具体的に評価軸として使うものが右側ということであれば、テーマとなる考え方、理念と加味すべき視点というものを分けるのではなく、一体的に整理したらいいのではないかという気がする。また、言葉として見ても、加味すべき視点という意味がどうも弱い感じがする。

例えば、テーマとなる考え方の中にある「国際平和文化都市」の実現に寄与することとは一体どういうものさしになるのかということや右側から関連するもので整理すると、4番の国内外からの集客ということになるかもしれない、また、2番の原爆ドームの存在を生かしているかということにもつながるかもしれない。ただし、2番の(1)、(2)、(3)は基本的には歴史、特性との関連を持たせること、つまり、ここで言っているのは、過去と未来をつなぐ空間であることということや、それを言っているわけであるから、それはどういうことかと言うと、右側に書いてある(1)、(2)、(3)であるとなる。3番の魅力を高める都市機能であることというのは、ものすごく抽象的であるが、具体的に言うと右側の1の(1)に書いてある、都心にふさわしい都市機能であるか、また、機能分担の可能性はあるか、あるいは5番に書いてあるところとの関連、つまり、広島駅周辺との連携を図ることができるかなど…。経済の活性化に寄与することについては、にぎわいの創出や中央公園、シャレオとの連携を図ることができるかなど、そのように噛み砕いてもものさしを作っていないと、どうもいろいろなアイデアを比較するにはふさわしくないのではないかという気がする。そう考えると、5番の社会環境の変化に対応するものというのは、具体的なものさしとして何が設定できるのだろうかというところがあり、一般論的には誰が見てもそれは当然のことであるため、あえてこれを言

わなくてもいいのではないかという気がしている。

今井委員

先ほどの佐藤委員の話の続きになるかもしれないが、私も加味すべき視点というのが何か補足的なものとして捉えられているのが、少し疑問な点である。

テーマとなる考え方、理念はきれいにまとめられているとは思いますが、はたから見ると当り前のことというか、「広島個性を生かす」と書いているのであれば、もう少し強くしていくべきではないかと思う。強くしていくためには、加味すべき視点の2番にある(1)、(2)、(3)の全てが入ると思うが、やはり、1950年に丹下健三さんが出された広島平和都市建設構想案、それを継続していくのがいいのではないかと、それがやはり広島らしさというものを強く打ち出せるのではないかと考えている。この構想案は、あの時代に終わったとは思っておらず、今なお続いていると考えており、つまり、復興はまだ続いているのではないかと考えている。さらに、広島に住んでいながらも、丹下さんの構想を知らない人、都市軸構想を知らない人も多くいると思うため、今回のテーマとなる考え方、理念が新しいものかどうか分からないが、新しいものを作るよりは丹下さんのコンセプトを継承していく方が、球場跡地から発信していくのにはいいのではないかと考えている。その中から、加味すべき視点やテーマとなる考え方、理念に書かれていることが、具体性を帯びているかを検討していく必要があると考えている。ただ、にぎわいの場ということはあるのだが、にぎわいや周辺地域を含めて経済の発展という可能性を短期間でクリアしていくのは難しいと考えており、それは、今年度の終わりに活用方策を策定した後も常に考えていかなければいけないことであり、今の段階でにぎわいとはこれだということを決めるべきではないと考えている。

最後に質問であるが、この委員会、今日は平成24年度の1回目であるが、今後の予定はどうなのかなということをお聞かせいただきたい。私たち広島市立大学のグループも、研究や調査など具体的に動いていこうと考えているのであるが、第3段階に移る時期や策定期間などについてお聞かせいただきたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

資料1で示したように、今委員会は3回目である。平成24年度に委員会自体は4回程度予定しており、本日、議論いただいているのは、アイデアを長期的な視点やまちづくりの視点から分類、整理といったところで、4の具体的な各アイデアの比較考量に移る際に、どういった評価軸、あるいは、ものさしで評価したらいいのかということについて、資料3を議論していただいているところである。

今後、この評価軸が委員会で固まった後、個々のアイデアの比較考量に入り、その際には、先ほど御意見があったように、第3段階で予定している実現可能性等の面で、都市公園法上の制約や、財政上の制約といったものも先取りしてお示しし、各アイデアを比較考量していただき、旧市民球場跡地にどういった機能がふさわしいのかということについて御議論いただきたいと考えている。

今井委員

流れについては理解しているのだが、具体的な月、例えば、この委員会は12月で終わると

いったことや、何月に策定するといったことが決まっていれば教えていただきたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

事務局としては、委員会の議論を踏まえて、今年度中には利用計画を策定したいと対外的にも申し上げているため、遅くとも今年度末には利用計画を策定するという考えている。当然、議論の進み方等々で早まることも考えられると思っている。

何月に何をということは、今のところはまだおしできない。事務局の思いとしては、本日、評価軸等を定めていただければ、具体的な各アイデアの比較考量について、検討グループ会議の方で1、2回揉んでいただき、それから委員会にと考えてはいるが、それがいつ頃かということは、まだ決めていない。

山野井委員長

今はまだ文章でしか皆さんに見えていないため、どういった形のものが来るのか全く見えてないと思う。実際に、いろいろな地域にあるものについて、予算規模ではどのくらいであるか、また、どれくらいの人があるのかということも、実際の数字を示し、こういった形がいいのではないかと、こういったものを組み合わせればいいのではないかとといったことも、この資料3で出しているようなものを網羅しながら、形として見せていくのが次のステップになろうかと考えている。おそらく5月の検討グループ会議以降、そういった形が見えてくると思うため、次の委員会ではある程度の形を示すことができるのではないだろうか。

そういった形を示した上で、今度は、実際に、事業費や公園法といったところの議論を行い、最後の落とし込みが年内いっぱいまで掛かるのではないかと考えているが、そういったことを踏まえて今日この資料3の方で加味すべき視点や考え方、理念について、皆さんの意見を出していただければと思っている。

岡野委員

先ほどから理念や加味すべき視点をどう捉えたらいいのかという発言があったが、私の考えを少し申し上げておく。皆さんにもいろいろな考えがあろうかと思うが、私は、理念を次のように捉えている。具体的な利用案としていろいろな意見が出たが、その様々な意見の中に共通する考え方として基点になっているものが五つのグループに分けられ、これを理念と呼んだ。この理念は、要はこれから我々が考えていく上で、欠かすことができないものであり、したがって、例えば、先ほど佐藤委員も言われたように、社会環境の変化、あるいはその対応とは何ぞやといったことについては、多分議論を重ねても結論が出ないテーマだろうと思う。先だって、文化や平和、国際とは何ぞや、また、広島市の特性、個性とは何ぞやといった話があり、これについてもいろいろな意見があると思う。しかしながら、五つの理念というものは欠かせないものであり、蔵田委員が言われた定量的問題にはそむくことになるが、せいぜい我々ができることは、4段階評価でも、5段階評価でもいいのだが、満点の5ではないから4にしようといった感性的な数字で評価し、ただし、委員全員の評価を集めたときには定量化される、そういった性格のものになるのではないかと。

加味すべき視点とは何かというと、下に(1)、(2)、(3)と書いてある、例として挙げられてい

るものはここでは無視するが、加味すべき視点として書かれている1から5の五つは、今から何かをしようとしたときに、その実践上、決して無視することができない大切な要素、言い方を変えると、行政上の観点からはどうしても必要な欠くことができない要素、これが加味だと私は考えている。したがって、加味すべき視点の評価は○か×しかない。利用案が出てきたならば、1から5について全て満たしておかないといけない。その中の一つでも×があれば、その案は共通意志として取り上げるに値しないものだと位置付けられるものだと考えている。

先ほど西田委員が言ったように、つまらないものができるくらいなら空き地のままがいいということについては、全く同感である。つまらないものができるくらいなら空き地の方がいいが、別の言い方をすると、空き地のままでも素晴らしい土地に何かするのであれば、皆ができて良かったと思うものを造ろうと、ではそれは何かということ、我々が考えるということがこの委員会だと思っている。

坂村委員

私も加味すべき視点というものが、増えれば増えるほど訳が分からなくなってしまうため、この紙一枚を見たときに何かアイデアが思いつくようなものにしてほしいと思う。これだと話が広がりすぎて、何に対してでも言えてしまうというか、まとまりがないので、もう少しシンプルで分かりやすい内容であればいいと思っている。

コンセプトについても、何度も話が挙がっているが、若者という単語の使い方が悪いのではないかと考えている。若者としてしまうと、今の若い世代を対象としている感じを持つ人が多くなるため、例えば、「誰に対しても」や「全市民に対して」など、もっと分かりやすい表現の方がよいのではないかと考えている。

杉野委員

前回の検討グループ会議には出席していないのだが、送っていただいた資料に目を通してみると、広島らしさということと若者、その二つを主に議論していたと思う。

広島らしさは、確かに重要ではあるが、やはり、後から付随してくるものだと考えている。そこに何かを造り、それが広島市にあることで大きな役割を果たしてくれるのであれば、それがやはり広島らしさというものになると考えることができ、絶対に広島にはこれがないといけないというものはないと思っている。

若者について、少し考えてみたのだが、具体的な例を挙げると、ディズニーランドがあるが、ディズニーランドとディズニーシー、ディズニーリゾートの年間入場者数は2千万人を超えているそうである。広島市の観光客数の何倍もの観光客が東京ディズニーランドに来ているということになる。なぜ、ディズニーランドに多くの人が集まるのかというと、あそこは若者に焦点を絞っているのではなく、訪れる人たちに夢を与えるのだと、ディズニーランドの創始者ウォルト・ディズニーの本には書いてあった。ディズニーランドを造ることは極論であり、実現可能性も考える必要があるが、もし広島市にディズニーランドがあったと考えると、それはすさまじい集客効果があると考えている。ディズニーランドでなくても、それに近いウォルト・ディズニーの挙げている、夢のある場所、また、ウォルト・ディズニーは、子どもと一緒に大人も遊べるような、そういった場所を造るべきだということも理念と

して挙げていたように、旧市民球場跡地については、若者を中心としたというよりも、老若男女、家族みんなで楽しめるような場所にするべきだと考えている。それがいろいろな人に知れ渡り、海外からも様々な人が来てくれば、それが新たな広島らしさを備えた場所になるのではないかと考えている。

吉長委員

坂村委員が言ったように、日本語にすると非常に分かりにくいので、117 万の市民が「そういうことなのか」と分かるようなものにした方がいいのではないかなと思うようになった。先ほど天倉委員が、これは市長が言ったのかと質問したが、市長が言ったからこう書いているというのではやはりいけないのかもしれないと感じている。小学校の 3 年生でも分かるような言葉を使った方が議論するときもよいのかもしれない。

最近、市長がこの球場跡地や西飛行場の問題を語るときに、こんなものが欲しいというのは何でいるのか、何でいるのかというところを掘り下げるような逆発想も必要ではないだろうか。今はミッションがあり、上から目線で議論しているが、逆も考えるべきではないだろうか。加味すべき視点の方が分かりやすいというのであれば、その辺からやるなど、少し方法論も検討した方がいいのではないかなという感じもしている。

この委員会がいつまで続くのかということをお皆さんも危惧されているだろうから、最後は平成 25 年の 3 月に委員会を開いたら終わるようであるので、是非、局長の方から各委員に、最後は平成 25 年の 3 月でこの委員会をまとめたんだということを一言、言っていただければ、私も気が楽になるのだが…。

西田委員が言ったように、私もあそこのホテルから見て感じるのだが、跡地は広いが、例えば運動する多目的な運動場、箱物を造るにしても、あのライトスタンドは邪魔になるなどという思いが本当はしている。しかし、これを言ってしまうと、歴史を語る人は何を言っているのかということになってしまう。そのように感じているため、是非、旧球場跡地がきれいに整備され、菓子博をイメージする前に、跡地の見える場所で会議をした方がいいのではないかなと思う。

蔵田委員

私にも付託を受けているミッションがあるが、加味すべき視点の 5 に、「周辺地域との連携による相乗効果が期待できること」ということがある。先ほど、房安委員からあったように、この検討対象エリアには御案内のように商工会議所のビルの一帯も含まれていると認識している。こうした理念に基づき、アイデアの比較考量が進む中で、本所ビル、商工会議所のビルのあり方についても議論の俎上に上るものと理解している。そうした中で、本所ビルの建設についても、この委員会の議論を踏まえて、検討を行ってまいりたいと考えており、決して非協力的ではなく、協力的であるということをお皆さんに認識していただきたいと思う。是非、そういう意味でも現地でやられたらどうだろうか。

下村副委員長

今、非常に重要な発言をされたと思うのだが、前回の会頭のときは、会頭主導型で、我々はいろいろなことをやってきたが、今回の会頭に関しては、この委員会の結論をもって、商

工会議所の移動云々を考えるとということで理解してよいのだろうか。同時に、商工会議所の中に、山下さんを中心とする委員会が多分できているはずであるが、その辺の動きはどうなっているのか。

蔵田委員

その動きについても、適時、こちらの委員会の意見と並行して…。上位概念としては、やはり先ほど申したように、委員会を尊重するという理解でよいと思う。

下村副委員長

前回の会頭が非常に活動的であったため、そういう意味合いからすると、我々も引っ張られ、商店街が商工会議所の中に入り、前回の活性化案を作ってきたわけであるが、それが180度変わり、こういう状況になっているため、そういう意味からすると、我々商業者を含め、商売人のあり方としては、商工会議所のあり方がどうなるのかということについて、会頭のお考えなど諸々も、はっきり出していただければありがたいと思っている。その辺も含めて願います。

蔵田委員

それは伝えておく。

小松委員

紙屋町二丁目の提案は一応出したのであるが、文字と言葉が分かりにくく、何を言っているのか分からないが、次回、数字を入れた文書ができれば、是非、提案を聴き、こちらからも提案させていただきたいと思う。

山野井委員長

数字については、次回出るかどうかは分からないが…。

小松委員

少し説明不足だったと思うが、要するに何をやるにしても、何人の人が集まるか、どのくらいの経費が掛かるのかというものについて数字が出ると思う。何をやるにしても、やはり数字を入れないと、分かりにくいと思っているため、数字が出たときから話をまた進めたいと思っている。

打越委員

にぎわいについては全員が同じ考えだと思うが、これから国内外からの集客力を見込むためには、旧市民球場跡地だけでなく、ハノーバー庭園やこども文化科学館、青少年センターも含め、大胆な考えで総合計画を立てていく必要があるのではないかと先立つものがあると言われるが、先立つものは、いろいろな抛出方法があると思うため、市もそれぐらいの勢いでやっていただきたいと思う。旧市民球場跡地活用のアイデアの機能別分類表をずっと見ていたが、複数のアイデアを組み合わせ、総合計画を立てて進めていけば、網羅できることが

いっぱいあると思う。

山野井委員長

ここまでの議論を簡単にまとめておきたいと思うが、皆様からいただいたいろいろな考え方や理念、そして、加味すべき視点等については、ここに書かれていないようなことも出てきたため、これについては、今後、事務局としっかり資料3に反映させていくということ、私と副委員長に一任していただくということによろしいか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、以上で議事(2)を終了させていただく。

(3) アイデアの比較考量について

山野井委員長

事務局から説明があった内容でアイデアの比較考量を進めていきたいと思うが、よろしいか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、特に異議がないようであるため、そのような進め方でアイデアの比較考量をしていきたいと思う。

今井委員

アイデアの比較考量についてではないが、検討グループ会議では少人数であったため、一人が意見をしたらそれについて返すというようなことが結構行われていたのだが、委員会になるとどうしても意見しか言わないため、とても議論になっているとは思えない。例えば、自分の発言したことが具体的に動いていくのかということについても、疑問である。今後、何か施設を造るにしても、都市計画やまちづくりの専門家が入ってこないのかということも気になる。今後、専門家が入らないとどうにもこうにも進んでいかないのではないだろうかということが一つの意見としてあるのだが、皆さんがどう思われているのかということをお聴きしたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

専門家、いわゆる有識者の御意見についての提案であるが、以前にも下村副委員長の方から専門家の意見を取り入れてはどうかといった提案をいただいている。予算等はないのだが、こうした議論を進めていく中で、やはり有識者の意見のある程度の段階で聴くべきだということであれば、その方向で調整することは可能である。そこはあくまでも委員会として有識者の意見が是非ともということがあればということで、その辺のところは、委員長や副委員長とも相談させていただき、そのような場を設けることもやぶさかではないと考えている。

山口委員

私も、最終的にどう進んでいくのかがよく分からないのだが、加味すべき視点をものさしとして、点数制度によって、最終的にどのアイデアがいいのか、アイデアを例えば一つに絞るのか、あるいは三つに絞っていくのか、おそらく点数などで順位が付くのだらうと思っ
ているが…。先日の日経新聞では、市長が最終的に判断するというコメントもあったが、最終的な候補をどのくらいに絞るのか、その辺をどう進めていくのか、最終的な候補の数をどう考えているのかということをお聞きしたい。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

今後、各アイデアの比較考量に進んでいただき、球場跡地にどのような機能がふさわしいのかということ
を議論いただくことになっている。そうした議論の中で、最終的には落ちていく案もあるだろうが、最終的に一つになるかどうかというのは分からない。それは、今後の推移であるが、複合的なものになるのかもしれない。そのようにある程度、議論いただく中で、絞込みはされてくると思っている。委員会の中で一つのものをとら思っ
ておらず、いくつか残ったものを最終的に市長が判断するということである。

山口委員

最初から絞るということではなく、議論の中でやはりこれは外せないという中で残していく。最終的な候補の中から市長が判断するというイメージでよいか。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

こういった議論を公開の場で行っているため、いろいろな意見が出て、そうやって段々と絞り込まれ、最終的に市長がこの案でという決定をしたときにも、どうしてこの案になったのか、あるいは、どうしてこの機能は漏れたのかといったことについても、広く市民の皆さんに納得していただけることになると事務局としては考えている。

下村副委員長

私もこの委員会のメンバーに入っているが、いろいろな方から「この委員会は何をしているのか」と聞かれる。その辺は、市の広報が非常に不足しているのではないかと感じている。ホームページを見れば全ての発言が出ているが、委員会はこういう形で進んでいるということをもっと分かりやすい言葉で、市民に広報することも考えてほしい。

先ほど、有識者のことについて話があったが、安藤さんなどいろいろな方に当たっており、先ほど予算がないと言ったが、市長はあると言っているのであるから、今後、有識者の意見を聴くことによって、この委員会がより有益になるようにしていくべきではないかと思っている。

山野井委員長

それでは本日の議事を終了させていただきたいと思う。事務局の方から何かあるか。

荒神原旧市民球場跡地担当課長

次回は、検討グループ会議ということであるが、会議の開催日程等々については、別途事務局の方で調整させていただき、連絡させていただきたいと思う。

山野井委員長

それではこれをもって、第3回の委員会を閉会とさせていただく。